



# ハーモニー



## 合唱コンクール

12月6日(月)の午後、合唱コンクールを行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度も現時点では保護者の皆様の授業参観は実施しておりません。そのため、学校での生徒の様子を見ていただいたのは、1学期の体育大会と、今回の合唱コンクールの2回のみです。平日午後なので、お仕事の関係もあり多くの方々に来ていただくのは難しいと思っておりましたが、予想を上回るたくさんの方々に来ていただきました。また、兄弟姉妹のいる保護者の皆様には1度退場していただき、再度入場していただく煩わしさにも関わらず、協力していただきありがとうございます。そのため、生徒の緊張感も大きく、最初に発表した2年2組は聞いている私たちにも緊張が伝わってきました。トップバッターは辛い面もありますが、大役を果たしてくれたと思います。発表順に内容及び結果を紹介します。保護者の皆様が学生時代に歌った曲もあるかもしれません。

年組	合唱学級スローガン	課題曲	自由曲	総合結果
2-2	音程を外さずに歌う	大切なもの	輝くために	
2-1	一人一人が大きな声を出す		心の瞳	
2-3	人任せにせず、一人一人が頑張る		旅立ちの時~Asian Driam Song~	銅賞
1-3	練習したことを最後までやって、後悔がないように歌う	マイバラード	COSMOS	
1-1	協力して1組らしく、明るく歌い上げよう		My Own Road~僕が創る明日~	銅賞
1-2	一人一人が感情を込め、息を合わせて合唱しよう		僕らの奇跡	
3-1	Crazy Cool Chorus	大地讃頌	あなたへ~旅立ちに寄せるメッセージ~	銀賞
3-2	響け!37人のシンフォニー~一人一人がメインボーカル~		~二一世紀に生きる君たちへ~決意~	金賞

また、2年生の合唱が終わった休憩時間と1年生の合唱が終わった後の休憩時間に3年生の歌声が響いていました。少しの時間でも活用してスローガンを達成しようという熱い気持ちが伝わりました。ところで、合唱コンクールはクラス全員で文字通り“合唱”するのですが、歌が好きな人、嫌いな人、いろいろな人がいます。その人たちが自分のできることを発揮して、また、発揮できるようにクラスの友達に声をかけて一致団結した成果が今日の合唱に表れていたと思います。さらに、今日は体育館で距離が保てることから、マスクを外して歌っても良かったのですが、クラスの作戦で全員マスクで歌ったり、逆に指揮者の合図に合わせて一斉に取ったり、態度や姿勢を揃えるところにも工夫がされていました。そういったことも点数に影響していたと思いました。

①態度、②姿勢服装、③音程、④リズム、⑤表現、⑥声の響き で採点しました。



(金賞：3年2組)



(銀賞：3年1組)



(銅賞：2年3組)



(銅賞：1年1組)

「言葉のキャッチボール」「心のキャッチボール」が大切なことが伝わってくる作文を読み  
ました。みなさんにも紹介します。

## 「性にとられない世の中を」 熊本県人権作文最優秀賞(県人権擁護委員連合会長賞)より

私は今、自分の性別に迷っています。男性にも女性にも偏りたくないのです。そんな自分がいる  
ことに対し、体だけが発達していくことが私の悩みです。違和感が出てきたのは中学生になっ  
てからです。私が入学した中学校では、生徒の名簿が男女で分かれていて、小学校でずっと1番  
だった私は中学校では31番になりました。委員会や係、生徒会執行部の人数も男女別になっ  
ていました。「女子」という枠に嵌まりたくない私は納得できませんでした。「世の中は個人の尊重だ  
とかジェンダーフリーだとか言われているのに細かいところは何も変わっていないじゃないか。」  
と思いました。

その後、昨年から私の学校の生徒会規約が一部改正され、男女問わず投票で選ばれるようにな  
りました。そして今年度から、名簿が男女混合になりました。私はとてもうれしかったです。やっ  
と自分の名前が1人の人として載ったという気持ちでした。しかし、新学期が始まる朝、一緒に話  
をしていた女の子と男女混合名簿の話になった時、私が喜びの言葉を発しようとした瞬間に相手  
から言われた言葉は、「何でわざわざそんなことをしたのだろう。意味が分からない。」でした。私  
は頭が真っ白になり、一瞬反応が遅れて「そうだね。」とだけ返しました。その後から来た友達か  
ら「女子は女子で分けて欲しかった。」という声がちらほら聞こえてきました。私はなんとなく  
罪悪感を感じ、居心地が悪かったです。けれど、それと同時に「どちらにも入りたくない人や、勝手に  
決められたくない人もいるのに。」と心の中で反発しました。

私は1度、自分の悩みを母に相談したことがあります。母は、「そんな時期もあるよ。」と言っ  
てくれました。確かに思春期だからこその迷いかもしれない。何年か後には男性か女性のどちらかに  
傾いているのかもしれない。しかし、今の私は男の枠にも女の枠にも嵌まりたくありません。だ  
からこそ性別に悩む今の私の思いを主張したいです。

確かに女子は女子、男子は男子に分ける方がスムーズだし、友達との仲も深められるかもしれま  
せん。でも、自分の性に違和感を抱いている人たちがいることを忘れないで欲しいと思います。一  
人一人の要望を一回一回聞き入れてくれという訳ではありません。ただ、男女の間に引かれた線を  
ほんの少しぼかしてもらえただけでいいのです。それが当たり前になること、そして引かれた線が  
消えていくことがこれからの世の中に必要であり、目指すべきではないでしょうか。そうすること  
で多様性を尊重する第一歩として、それぞれの個性を受け入れる空間が作れると思います。

私の持つ性の悩みは思春期特有の一時の迷いかもしれませんが、けれど、世の中へのこの思いは、  
今の私だからこそ、実際に性に悩む立場にいる私だからこそ感じられるものであり、これからも大  
切にしていかなければならないものだと思います。

ジェンダー問題や男女の問題以外にもこれからの世の中には互いを認め合い、尊重しなければ  
いけないことが増えていきます。互いの個性を認めることは簡単ではありません。まずは自分が相  
手を尊重し、自分のことを伝えていきたいです。そして、みんなが「一人の人」として生きていけ  
るこれからの社会を作りたいです。